

公益財団法人 生存科学研究所
2019年度事業報告
〔自 2019年4月1日 至 2020年3月31日〕

I. 会議実績

1. 理事会

1) 2019年度第1回理事会（2019年6月10日）

- ・公益事業基金の積み増しについて
- ・2018年度事業報告および附属明細書の承認について
- ・2018年度計算書類、附属明細書および財産目録の承認について
- ・定時評議員会の日時、場所、目的である事項について
- ・任期満了に伴う理事、監事の選任について
- ・規程の改正および制定について

報告事項

代表理事・職務執行理事の職務状況の報告

財産運用の経過および結果の報告

2) 2019年度第2回理事会（2019年7月3日）

役員（代表理事（理事長）、副理事長、専務理事、常務理事）の選任について

3) 2019年度第3回理事会（2020年3月19日）

- ・2020年度公益事業（自主研究・助成研究等）の採択
- ・2020年度事業計画の承認
- ・2020年度収支予算書、資金調達及び設備資金の見込みの承認

報告事項

理事長、副理事長および専務理事からの報告

2. 評議員会

1) 2019年度定時評議員会（2019年6月26日）

- ・2018年度計算書類、附属明細書および財産目録の承認について
- ・任期満了に伴う理事、監事の選任について

報告事項

2018年度事業報告について

財産運用の経過および結果の報告について

2019年度事業計画および収支予算について

規程の制定および改正について

3. 常務理事会

1) 2019年度第1回常務理事会（2019年7月18日）

- ・倫理委員会規程の改正について
- ・各種委員会委員の選出について
- ・第7回生存科学シンポジウム企画委員の選出について
- ・理事の役割について

2) 2019年度第2回常務理事会（2019年9月26日）

- ・自主研究・助成研究申請について
- ・第7回生存科学シンポジウムについて

- ・その他
- 3) 2019 年度第 3 回常務理事会 (2020 年 1 月 21 日)
 - ・ 2020 年度公益事業の選考について
 - ・ 2020 年度予算案について
 - ・ 2020 年度事業計画案について
 - ・ その他

II. 事業内容

自主研究事業、助成研究事業、シンポジウムの開催および学術誌「生存科学」の発行などの事業を実施した。

年度初めに、当研究所の根幹となる、自主研究、助成研究の採択者と当研究所役員との交流会を 2019 年 5 月 21 日 (火) 開催した。役員と研究責任者、助成研究申請者がコミュニケーションを図り、各自の研究について情報共有の機会となった。また、研究活動の基本的な考え方、公正な研究活動の推進等の説明を行った。

出席者：13 名 (役員 2 名、自主研究責任者 8 名、助成研究採択者 3 名)

1. 自主研究事業

会員による調査研究を対象に募集し、継続事業 (研究) 3 件、新規事業 (研究) 5 件の合計 8 件に支援を行った。

また、2017 年度より実施している、自主研究責任者と役員 (理事長、専務理事) によるヒアリングを 8 名の責任者 (全研究会) と年度途中の 10 月～11 月にかけて実施した。

なお、研究のためのコミュニケーションを図るなど、積極的な活動の見られない研究責任者に、研究会開催の計画、自主研究事業の適切な実施に向け、助言、評価を行った。

1) 生存科学とエンパワメント実践に関する研究

生存科学とエンパワメント実践に向けた知恵の集積に向け、子どもから高齢者まで生涯にわたるエンパワメントについて、実践者、研究者、当事者とともに語らう場を「みらいエンパワメントカフェ」と命名し、カフェ及びシンポジウムを開催した。子どもからお年寄りまで生涯にわたるエンパワメントについて、異業種異分野の研究者、専門職、当事者が一堂に会し、共にみらいを描き、自分エンパワメント、仲間エンパワメント、組織エンパワメントを相互に活用しながら、生涯にわたる発達を踏まえたエンパワメント実践と生存科学の湧活ネットワークを展開した。さらに、エンパワメント実践の理論に基づく体系的な整理に関する議論を深め、生存科学の発展に資する知見を得た。

第 1 回 質の高い子育て支援の普遍化に向けたエンパワメント

平成 31 年 4 月 14 日

第 2 回 フォーカスグループインタビュー法の活用

令和元年 5 月 22 日

第 3 回 多職種連携セミナー

令和元年 8 月 17 日

第 4 回 根拠に基づくインクルーシブ保育

令和元年 11 月 23 日

第 5 回 かかわり指標の活用と実践

令和元年 12 月 16 日

第 6 回 専門職のスキルアップ支援

令和 2 年 2 月 9 日

2) 高齢者と対話ロボットのコミュニケーションに関する量的・質的調査研究

自主研究のテーマである「高齢者と対話ロボットのコミュニケーションに関する量的・質的調査研

究」の一環として、5回の講演を実施し、研究者全員が研究テーマをより深く理解することを試みた。第1回「人とロボットのインタラクション」においては、メーカーの異なるロボットでも相互に通信ができ、同じ情報サービスを利用しあえる共通プラットフォームについて紹介された。第2回「パーキンソン病に対する脳深部刺激療法からみた運動－認知－情動の関係」では、神経生物学的モデルとして、神経精神疾患との関連や機能的脳画像研究等の知見より、皮質－線条体－視床－皮質回路（CSTC回路）が注目されており、認知・情動・運動機能が、互いに深く関連していることを解説して頂いた。第3回「エンタテインメントロボット aibo の研究用途への活用」の発表の中で、介護施設では、aibo が会話促進のため導入されており、これによって利用者間のコミュニケーションが活発化していることが確認されているようだ。第4回「脳情報から精神・神経疾患に迫る”情報医学”の可能性」では、50Khz以上の周波数成分を含む「情報環境」がヒトに影響を与えている可能性があるというハイパーソニック効果の研究が紹介された。第5回「ロボット倫理、データ流出に関する倫理」では、日本と欧米のロボットに対する感覚の違いや2018年のアメリカ大統領選挙に深く関わったケンブリッジアナリティカ社（CA社）のデータ取り扱い問題について解説して頂いた。

第1回 2019年6月13日（木）、東京通信大学 234教室、

講演内容：「人とロボットのインタラクション」、土屋陽介先生、東京通信大学・情報マネジメント学部

第2回 2019年9月10日（木）、東京通信大学 234教室、

講演内容：「パーキンソン病に対する脳深部刺激療法からみた運動－認知－情動の関係」深谷親先生、日本大学医学部脳神経外科

第3回 2019年10月10日（木）、東京通信大学 234教室、

講演内容：「エンタテインメントロボット aibo の研究用途への活用」、西尾真人先生&片山健先生、(株)ソニー、AIロボティクスビジネスグループ

第4回 2019年12月12日（木）、東京通信大学 234教室、

講演内容：「脳情報から精神・神経疾患に迫る”情報医学”の可能性」、本田学先生、(国研)国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第七部 部長

第5回 2020年2月27日（木）、東京通信大学 234教室、

講演内容：「ロボット倫理、データ流出に関する倫理」、高木美也子先生、東京通信大学・人間福祉学部

3) 医療・福祉・教育におけるサービス利用者側のモラル意識と葛藤の実際

－倫理的葛藤の解決に向けて－

本年度は全6回の自主研究会をすべてスカイプを用いたオンライン上で開催。

各研究会における討議概要

(1)研究活動計画の具体化 令和元年6月9日

研究課題と構想をさらに明確化し、研究活動計画を具体化することを目的に、予算執行を含む今後の活動計画の実際を検討した。

(2)予備調査に向けて 令和元年8月5日

来年度の量的調査に資する知見の獲得を目的に、本年度は班員が分担しそれぞれの専門領域における問題意識に基づいた予備調査に際しての各自の構想を共有し、今後のスケジュールを確認した。

(3)倫理審査について令和元年 令和元年9月30日

生存科学研究所に対して倫理審査申請中であることを確認した上で、各自の進行状況と予算執行の詳細について情報を共有した。

(4)予備調査進行状況の共有 令和元年11月11日

各自が実施している予備調査の進行状況を共有した。

(5)質問紙調査票の項目の概念枠組みとその具体的内容の検討 令和2年2月17日

各自のインタビュー調査の進行状況の確認と量的調査で使用する質問紙調査票の項目の概念枠組み

とその具体的内容を検討した。

(6)質問紙調査票の具体的内容と調査デザインの検討 令和2年3月23日

本年度の総括と、次年度に計画している量的調査の見通しについて共有した。

4) 人間の進化と生存から見た依存症

本研究では、行為依存症と薬物依存症を進化論的観点から理解し、人間にとって依存症は何なのか、また新しい視点から依存症を理解することで、より良い依存症の治療法を見出すことを目的とする。とりわけ、馴化 (Domestication) と依存症という一見、全く関連性が無いような2つのプロセスの間には、実は様々な分子 (神経伝達物質のドーパミンやセロトニンなど)、メカニズム (シナプス可塑性など)、行動 (攻撃性など) が共通していることから、ヒトでの自的馴化 (Self-Domestication) における環境適応の障害としての依存症という仮説を、行為依存症と薬物 (主にアルコール) 依存症の患者を対象に、心理実験、生化学実験、遺伝子解析実験などを行い、検証することを目的とした。初年度となる本年度は、パイロットケースを含め、15名の行為依存症患者 (窃盗症、性嗜好障害、ギャンブル障害) と25名の健常者の研究参加登録を行うことができた。研究参加者に対して、認知・情動機能を調査する心理課題や質問紙等を行ない、採血された血液サンプルを用いて、ストレスホルモンとテストステロンの血中濃度の計測を行った。また、2020年3月現在、高速液体クロマトグラフィーを用いたドーパミンやセロトニンとそれらの代謝産物の血中濃度の計測、ならびにマイクロアレイによるDNAメチル化解析中であり、データ解析は次年度に行う。

開催日:

2019年

4月23日、5月3・7・24・28・31日、6月4・19・28日、7月9・11日、8月1・7・9・22・27・28・29・30日、9月6・13・27日、10月8・25・29日、11月1・14・19日、12月9日

2020年

1月14・15・16・17・24日、2月13日、3月6日

2020年3月13日現在、新型コロナウイルス流行のため、開催場所となる共和病院には医療スタッフと患者のみの院内へのアクセス制限を行っており予定していた研究会は開催できておらず、次年度、制限解除されるまで延期となっている。

開催場所: 共和病院条件反射制御法治療 (CRCT) 診察室・会議室

各回の研究集会では、実験の実施とそれまでの実験から得られたデータの討論やそれを踏まえた上での研究内容や今後の方向性の検討などを行った。

5) 生存の理法の新展開に関する研究—世界の動向から—

これまで「生存の理法」の新展開に関係する世界の動向を、公衆衛生学、生命倫理学、法学等の学際的共同研究により探ってきた。その過程で、公衆衛生の領域では過去20年間に「公衆衛生倫理」という新しい分野が登場し、それが急速に拡大しているという認識を得た。そこで、「公衆衛生倫理」を軸に、研究会 (松田、大林、増田、岩隈、江口) を2019年9月から12月まで、連続して行った。研究は外部から藤田、越智、鈴木、太田、高田、芦野 (敬称略) の各先生を講師としてお願いした。一方、「バイオポリティクス」 (生政治) とは、「生権力」 (バイオパワー) と共に、フランスの哲学者ミシェル・フーコー (1926-1984) の用語であり、現代の公衆衛生はまさにバイオポリティクスの視点から検討し直す必要があるのではないかという考えをもつに至った。特にフーコーが亡くなった年 (1984年) 以降、エイズの蔓延により、一国の公衆衛生の制度を越えた、グローバル・ヘルスの課題と対応組織が急速に拡大している。

本研究では、現代の公衆衛生倫理とは何かという具体的なテーマに則し、公衆衛生倫理とバイオポリティクスを結びつけて論じることの意味について、さらにそれらが「生存の理法」とどう関係するのかについてまとめた。

「公衆衛生倫理」を軸に、研究会 (松田、大林、増田、岩隈、江口) を2019年9月から12月まで、連続して行った。研究は外部から藤田、越智、鈴木、太田、高田、芦野 (敬称略) の各先生を講師として

お願いした。(場所は、特に記載がなければ、聖路加国際大学 6-8時)

1. 10月9日 テーマ エイズと公衆衛生倫理と生存の理法 国立医療センター 藤田先生
2. 10月16日 テーマ 放射線と公衆衛生倫理と生存の理法 慈恵医科大学 越智先生
3. 10月23日 テーマ 保健師と公衆衛生倫理と生存の理法 前豊田日赤看護大学 鈴木先生
4. 10月30日 テーマ 文化と公衆衛生倫理と生存の理法 東洋英和女学院大学 大林先生
5. 11月20日 テーマ 精神保健と公衆衛生倫理と生存の理法 やどかりの里 増田先生
6. 12月4日 テーマ 公衆衛生倫理と生存の理法の法的側面について 岩隈先生
7. 3月3日 テーマ 「情報倫理等の国際研究としての患者の尊厳調査について」名古屋大学
太田教授 (場所 名古屋大学医学部)
8. 3月12日 テーマ フィットネスの指導者としての歩みから見た 生存の理法について
高田沙織先生
ミズノインストラクター (場所 東京家政学院大学)
9. 3月24日 テーマ リプロダクティブヘルスと公衆衛生倫理と生存の理法 芦野由利子先生
(JOICEF 理事) (場所 東京家政学院大学)

6) 森・その地域社会、生活文化、精神世界における役割の再生的研究

本研究会は、人工化、汚染化が進み自然が痩せていく現代の生存環境にあって、かつて地域のシンボルであった森を見直し、その再生の意義と方法を提起することを目的とする。研究会の基本は、①森を見直す・森を守り育てる。②森を創る、の2方向で、①は地域社会、生活文化、民俗や宗教など、主として歴史・文化史を通しての理論的研究、②は地域の中に入り住民と共に考え、コモンズとしての森を創る実践的活動、である。歴史と現実、理論と実践、この両者の協働によって森を現代に、生活に甦らせ、地域社会に再生し、森そのものの新生を図る試みで、研究発表もフィールドワークもこの2つの立場から行われた。①の方向では、従来森が果たしてきた意味・役割・機能を物心両面から検証し、個と共同体両面から森を位置づけた。森は人間に役立つもの、機能面からみられてきたが、そういう人間中心主義でない森の新生こそがいま求められているとして、新しい森の哲学を提唱した。②の方向では、仙台における<緑のトンネル・参道>づくり、防潮堤としての森づくりを見学、地域社会に根付く森は地域遺伝子を持つ樹種による、など実践知を学んだ。人間・社会・生存環境の治癒者としての森の発見と新生、森との新しいつき合い方の習得、それが研究会の願いである。

第1回研究会7月5日、於生存科学研究所。発表：藤原成一(元日本大学藝術学部)「森のオントロジー」(森に寄生し専ら資源と機能面から森を利活用してきた人間本位の森観を批判、生態系に基づく森観を提起)、続いて研究会メンバー各々のテーマの概略説明：小林芳子(生存研)「宮脇昭の森づくりの思想と方法」、清水美香(京都大学)「森再生とレジリエンス力」、高田勝(進化生物研究所)「森の野鶏から庭の家鶏へ」、等々力英美(琉球大学)「沖縄の森と人の営み」、日置道隆(金剛宝山輪王寺)「森づくりの実践哲学」、真鍋和子(児童文学者)「ヤンバルクイナはなぜ生き延びたか」、丸井英二(人間総合科学大学)「森との共生の新視点」。

第2回研究会9月28日、於仙台(輪王寺、千年希望の丘、交流センター)。輪王寺参道にて日置道隆住職より宮脇方式による森づくりの思想と実践並びに成果の解説、千年希望の丘にて陶山佳久(東北大学)より地域重視の森づくりの方法と実績の講義、交流センターにて公開講座：藤原成一「森を楽しむ」(外部風景・内部風景の融合論)、清水美香「レジリエンスの力」(地球環境の概況、生存環境劣化に抗する力)。

第3回研究会2020年3月20日、上野の森観察、つづいて生存研にて発表。藤原成一「森とつき合うー江戸・東京の生活空間のなかでー」(江戸幕府の都市計画にける森の位置づけ、町人・市民の森意識、

森とつき合う作法)。

7) 拡大する資本主義社会における人間性の存続可能性

当研究会は、特に資本主義社会に身を置く、ビジネス現場にいる経済人から見た資本主義に対する基本的な疑問について、人間のより深い部分にまで立ち入り、今一度、我々の立ち位置とこれからの進む方向性について確認してみようとするものである。そのために、「資本主義とは何なのか?」「資本主義という仕組みは、我々人間の本性に適合しているのか?」などの根源的な問題を、経済学のみならず、哲学・思想、脳科学、DNA、動物行動学、情報科学、芸術など、幅広い専門家の立場からの包括的な議論を公開の場で行うために、公開講演会を実施している。

メンバーは、太田博樹(東京大学教授)、小泉英明(日立製作所役名誉フェロー、他)、黒田由貴子(㈱ピープルフォーカス・コンサルティング取締役・ファウンダー、三井化学取締役 他)、渋谷健(シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役、コモンズ投信取締役会長、渋谷栄一記念財団理事 他)、中島隆博(東京大学東洋文化研究所教授)、堀内勉(多摩大学 社会的投資研究所 教授・副所長、㈱アクアイグニス取締役会長、学校法人田村学園理事、他)

公開講演会

(1) 2019年5月31日 ビジネスにおけるアートとサイエンスのリバランス

講演者 コーン・フェリー・ヘイグループ シニア・クライアント・パートナー 山口 周
会場 御茶ノ水トライエッジカンファレンス

(2) 2019年8月2日 出版記念シンポジウム

討議参加者 東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻・教授 太田博樹
会場 東京大学本郷キャンパス/山上会館 大会議室

株式会社日立製作所 名誉フェロー、日本工学アカデミー副会長、他 小泉英明
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役、コモンズ投信株式会社社長
渋谷健

東京大学東洋文化研究所教授 中島隆博
多摩大学 社会的投資研究所 教授・副所長 堀内勉
大阪大学大学院経済学研究科 准教授 安田洋祐
京都大学教授 広井良典

(3) 2019年9月6日 新しい経済の洞察～資本主義から信用主義へ

講演者 ブルー・マーリン・パートナーズ代表取締役 山口揚平
会場 東京大学本郷キャンパス 東洋文化研究所会議室

(4) 2019年11月29日 貿易戦争と資本主義

講演者 東京大学大学院経済学研究科准教授 野原慎司
会場 東京大学本郷キャンパス 東洋文化研究所会議室

(5) 2020年1月24日 資本主義とテクノロジー思考

講演者 リブライトパートナーズ株式会社 代表パートナー 蛭原健
会場 東京大学本郷キャンパス 東洋文化研究所会議室

8) 健康価値創造研究会(第二期)

健康価値創造研究会は二期目に入り、本年度中に3回の研究会講演討議を開催した。本研究会は10年の開催計画で、およそ80の健康価値創造にかかわる主要主題につき継続して講演と討議を続けているが、本年は 先ず、形質発現における遺伝素因と環境要因の交絡につき 双生児研究で著名な 安藤寿康慶応大学教授を囲んで真剣な討議を展開した。また、環境有害因子における健康破綻とその制御を課題として、世界的な課題となっているヒ素とアレルギー感受性物質を取り上げて議論を展開したが、この講演会は ICOHアレルギー免疫毒性科学委員会を立ち上げてこの分野に大きく貢献された 松下敏夫鹿児島大名誉教授のご死去を忍んで行われた。第21回研究会は ライフスタイル行動の遺伝をつかさどるMEME=模伝子

取り上げて GENEとの相違と相似などにつき、佐倉統東大教授と森本兼曩 産業医学研究財団常務理事が講演と議論を繰り広げた。

さらに 出版記念講演会を理科化学研究所神戸拠点にて開催し、関西圏の研究者や市民にも広く本研究会活動を理解していただいた。これまでの研究会活動の成果を広く社会に発信敷衍するべく 令和元年7月にeBook“健康価値創造研究”を創刊して Part 1 として4論文を掲載したが、かなり多くの方々に興味を持っていただいている。また、本年10月日本公衆衛生学会京都で 本研究会の討議を踏まえてCDC創設に向けたセミナーを主宰する。さらに、公衆衛生誌6月号に森本兼曩 産業医学研究財団 常務理事 附属研究所 主席研究員による”健康価値創造を志向する JAPAN-CDC創設への提言”論文が掲載される。

第19回健康価値創造研究会

令和元年6月10日 大修館書店会議室にて開催

討議主題：形質発現に及ぼす遺伝素因と環境要因

生体防御医学と未病予防の展開 誌上発表 長岡功 順天堂大学医学部生化学生体防御学教授
健康度を決定する遺伝と環境— 双生児研究が明らかにしたこと”

安藤寿康 慶應義塾大学文学部教授

第20回健康価値創造研究会

令和元年9月30日 生存科学研究所会議室にて開催

討議主題：生活労働環境と健康危機

海外での環境水汚染の現況・特に中国内モンゴルでの慢性砒素中毒フィールド調査の成果

吉田貴彦 旭川医科大学医学部社会医学講座教授

アレルギーは今どうなっているのか・国際的なアレルギー症例蒐集とその包括的予防法の開発に向けて

上田厚 熊本大学名誉教授

第21回健康価値創造研究会

令和元年12月16日 生存科学研究所会議室にて開催

討議主題：ライフスタイルとは何か 一どのように形成され いかなる意味をもつのか

ミームがつながる科学とライフスタイル 佐倉統 東京大学大学院情報学環佐倉研究室 教授
ライフスタイルと環境履歴 一 ミーム突然変異と行動変容刺激

森本兼曩 産業医学研究財団 常務理事 附属研究所 主席研究員

2. 助成研究事業

2019年度助成研究事業は、1) 認知症医療・介護における心理社会学的研究、2) 被災地支援に関わる防災学的研究、3) 助成出版事業を実施した。

1) 認知症医療・介護における心理社会学的研究

2019年度も社会が直面している高齢化問題を探究するため「認知症医療・介護における心理社会学的研究」の課題について公募を実施し、以下5件に助成を行った。

(1) 認知症医療・介護の心理社会学的なアプローチのあり方に関する研究

東京都医学総合研究所 主席研究員 中西 三春

(2) 認知症高齢者の終末期医療にかかわる倫理的課題

東京都立松沢病院神経科医長 井藤 佳恵

(3) 認知症の人による認知症施策評価実施のあり方に関する研究

藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授 武地 一

(4) 権利を基礎とする認知症医療・介護の在り方に関する研究

清山会医療福祉グループいずみの杜診療所理事長 山崎 英樹

(5) 日本の認知症施策への提言を目指す研究

2) 被災地支援に関わる防災学的研究

平成 30 年の豪雨、地震災害等、広域災害を踏まえ、被災地支援のための事業を計画、将来の災害に備える研究課題を公募し、以下 2 件に助成を行った。

- (1) 東北被災地における津波減災を目的とした「生存科学の森」づくり
一般社団法人森の防潮堤協会 理事長 日置 道隆
- (2) 大規模災害に備えた在宅療養者・家族のための地域対策
医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢 純一郎

3) 出版助成事業

2019 年度出版助成として、生存科学叢書の刊行、e-book（健康価値創造）に助成を行った。

(1) 生存科学叢書

生存科学叢書は、学術誌「生存科学」において、多年にわたって蓄積されてきた研究成果や最先端テーマへの積極的挑戦、実践活動を、広く社会に公開し、本研究所の理念と総合学としての生存科学の意義を諸学界や一般社会に広めていくことを目的として 3 冊刊行した。

安梅 勅江 編著

子どもの未来をひらく エンパワメント科学

堀内 勉、小泉 英明 編著

資本主義はどこに向かうのか

上田裕一、神谷 恵子 編著

患者安全への提言（群大病院医療事故調査から学ぶ）

(2) 電子書籍（e-book）出版

森本 兼曩 編集主幹

健康価値創造研究会の研究成果を e-book として生存科学研究所ホームページで公開した。

3. シンポジウム等の開催

1) 生存科学シンポジウム

当研究所の理念の一環として、第 7 回生存科学シンポジウムを 12 月に開催した。第 7 回目のシンポジウムでは、地球の環境を含めあらゆる局面で問題となっている「多様性」をテーマとして取り上げ、「生存への多様性」と題して開催した。参加者は 68 名。自然との関わり、遺伝と環境、そして多文化の人びとが生きる社会という、これからの私たちの生存のあり方に欠くことのできない多様性のごく一部を垣間見る貴重な機会となった。

2019 年 12 月 21 日（土） 於：上智大学四谷キャンパス 10 号館講堂

メインテーマ：生存への多様性

特別講演：多様性はなぜ必要か

生物学者・早稲田大学名誉教授 池田 清彦

講演 1： 人と自然の関係の多様性 -人間の生存環境を支えるもの-

愛媛大学社会共創学部教授 佐藤 哲

講演 2： 遺伝医学からみたヒトの多様性

信州大学医学部特任教授 福嶋 義光

講演 3： 現代日本のマイノリティと社会・文化の多様性

-外国にルーツを持つ子どもたちの視点から-

静岡県立大学国際関係学部教授 高畑 幸

2) 市民公開講座

第7回市民公開講座は当財団および日本ユマニチュード学会の共催で実施した。今回の市民公開講座では、「夢を現実に」をテーマにユマニチュードの施設認証制度をご紹介するとともに、実際に厳しい認定基準をクリアしユマニチュード施設認定を獲得したフランスの介護施設グループ Odysseur の管理者による講演を行った。

2019年10月20日(日) 於：一橋大学一橋講堂

市民公開講座：ユマニチュード認証制度

京都大学こころの未来研究センター特任教授

イヴ ジネスト

講演：ユマニチュード認証：夢を現実へ

フランス介護施設グループ

Odysseur

CEO

Edouard Laubies

General manager Jean Charles Dupuis

日本ユマニチュード学会設立挨拶

代表理事 本田 美和子

講演：福岡市におけるユマニチュードの取り組み

福岡市副市長

荒瀬 泰子

3) 医療安全セミナー

2019年10月5日(土)日本大学病院において、『対応困難事例研修会ー苦情・クレーム対応を超えて医療の境界を探るー』を開催した。

当医療政策研究会は、ここ3年ほど医療事故調査の初期対応実地研修会を行っていたが、本年度は、患者対応に困難を来しているような事例2件(自己退院事例、診療拒否事例)をとりあげた。定員30名に対し多数の応募があり患者安全、医療安全の観点からどのように対応していくのが良いか、参加者とともに検討を行った。

4) 講演会

患者および医療従事者にとって、質および満足度の高い医療を提供するためには、患者と医師の間、医療従事者間で、どのようなコミュニケーション能力が求められているかについて、様々な角度から議論することを目的として開催。

2019年11月10日(日) 於：東京慈恵会医科大学1号館講堂

テーマ 「コミュニケーションが医療を変える」

講演：コミュニケーションと協働が原点

ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子

講演；Five Steps You Can Take Today to Improve Communication in Your Operating Room

Cardiac Surgery, Massachusetts General Hospital Prof.Thoralf M. Sundt, I I I

講演：有害事象が起きた際のコミュニケーション

奈良県立病院機構 理事長 上田 裕一

講演：インフォームド・コンセントの本来の意味

江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授 隈本 邦彦

パネルディスカッション

4. 学術誌発行业

学術誌「生存科学」の発行

(1) 生存科学 VOL.30-1, SEPT.2019 特集：なおす・なおる／かえる・かわる(治療論・治癒論)

(2) 生存科学 VOL.30-2, MARCH.2019 特集：バイオポリティックス

III. 全般事項

2019年度も、これまで同様、当研究所の主旨である、人類の生存の形態ならびに機能に関する総合的、実践的研究による健やかな生存科学への寄与を目的として、縦割りの学問ではなく、哲学、倫理学、法学、社会学、経済学、生命科学、医学・医療学等の諸科学の視点とも協働する健康科学の立場から、総合的な、生存モデルの確立を図るとともに、人類の健康な生存秩序を確保するため、生存科学に関する研究および普及啓発のための事業を実施した。

1. 2019年度収支について

(1) 収入の部

経常収益（基本財産運用益、特定資産運用益、その他収入）予算額 36,593 千円、決算額 37,315 千円、723 千円の増収であった。

基本財産、特定資産の運用益が当初予算を上回ったことによる増収である。

賛助会員会費（法人会計）は、予算 1,200 千円に比べ、決算額は 1,260 千円増収となった。2020年4月1日時点の会員数は 120 名（会費納入者 69 名）である。

(2) 支出の部

経常費用（事業費、管理費）予算額 36,543 千円、決算額 35,451 千円、予算比 1,092 千円改善された。（公益目的事業：29,316 千円、法人会計：6,135 千円）

2. 管理について

編集委員会規程・選考委員会規程の制定および研究会運営規程・助成研究規程の改正を行った。

3. 理事・監事の改選について

任期が満了する理事、監事について、小島静二理事ならびに神谷恵子監事から申し出により退任し、新たに赤林朗氏、松田正己氏が理事に、山下昌彦氏が監事にそれぞれ選任し、理事 13 名（重任理事 11 名、新理事 2 名）、監事 2 名（重任監事 1 名、新監事 1 名）が、6 月開催の評議員会で承認された。

4. 広報活動

(1) 生存科学研究ニュースの発行

Vol. 34, 1 2019. 4、Vol. 34, 2 2019. 7、Vol. 34, 3 2019. 10、Vol. 34, 4 2020. 1 と年 4 回発行した。内容は、タイムリーな話題提供、自主研究会、シンポジウムの報告を中心に、研究会活動の紹介に努めた。

(2) ホームページの活用

ホームページに、健康価値創造研究会の研究成果を、e-book（電子書籍）として公開した。また、迅速な掲載内容の更新に努めた。

5. 会員制度

2019年度は、入会 9 名に対し退会 3 名、会費納入者 69 名（個人会員 64、シニア 4、準会員 1）であった。

当研究所の活動内容の浸透を図る仕組み、最新の会員への情報アプローチを図る必要がある。

会員異動状況

種別	2019年度		2018年度		2017年度	
	入会	退会	入会	退会	入会	退会
個人会員	9	2	9	11	9	6
シニア会員		1	1	1		

ジュニア会員						
準会員						
期首の数	114		116		113	
期末の数	120		114		116	

6. その他

京橋税務署、源泉所得税調査

2019年11月28日（木）、29日（金）の2日間、京橋税務署による2015年1月から2019年9月までの源泉所得税調査が行われた。

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上